

July 3, 2019

**【前日の為替概況】ドル円、3日ぶり反落 米金利低下**

2日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反落。終値は107.88円と前日NY終値(108.45円)と比べて57銭程度のドル安水準だった。米10年債利回りが低下したことを背景とした売りに押された。カーニー英中銀総裁(BOE)総裁が「不確実性が短期的な政策対応を正当化する可能性」と発言したことで緩和再開の思惑が浮上し、英長期金利が大幅に低下。米10年債利回りも1.97%台まで低下幅を広げたため、ドル売りが加速した。「緊急事態のため、ペンス米副大統領はイベントをキャンセルしホワイトハウスに戻った」「プーチン露大統領が国防相と緊急会談」との一部報道が伝わったことが思惑的な売りを誘ったのではとの見方もあり、節目の108.00円を割り込んで一時107.77円まで値を下げた。

もっとも、露大統領と国防相の緊急会談についてロシアのタス通信から「セヴェロモルスクの14名が死亡した潜水艦事故についての調査を指示したもの」との会談理由が伝わると売りも一服。その後は107.90円前後でのみ合いが続いた。

ユーロドルは小幅に続落。終値は1.1285ドルと前日NY終値(1.1286ドル)と比べて0.0001ドル程度のユーロ安水準だった。欧州タイムに欧州中央銀行(ECB)政策担当者の「7月に早急に利下げする理由はない」との発言に買いで反応し、一時1.1321ドルまで値を上げた。もっとも、買いは続かず、その後は引けにかけて1.1280ドル台まで売りに押された。EU首脳が次期ECB総裁にラガルドIMF専務理事を指名したことで、有力候補だったバイトマン独連銀総裁よりもハト派寄りとの見方が広がったこともユーロの上値を重くした模様。

ユーロ円は続落。終値は121.76円と前日NY終値(122.38円)と比べて62銭程度のユーロ安水準だった。ドル円やポンド円の下落につれて円高・ユーロ安が進み、一時121.72円まで下げ足を速めた。なお、カナダドル円はWTI原油価格が3%超下落したことも売り材料視され、一時82.21円まで値を下げた。

**【本日の東京為替見通し】明日の米独立記念日控え、リスク回避でドル円の上値は限定的か**

本日の東京市場のドル円は、上値が限定的な動きになるか。昨日、ペンス副大統領が急遽ホワイトハウスに戻った理由の詳細は、いまだに不明のまま。明日7月4日は米独立記念日ということもあり、米国を標的にするテロなどの可能性も否定できない。また、イランの核合意違反、香港のデモが過激化したことにより中国政府が介入する口実を与えてしまったことなど、地政学リスクが徐々に再び悪化する可能性がある。これらの国際情勢の不安がリスク回避の動きとなり、ドル円の頭を抑えることになりそうだ。

ドル円は、本日のNYカットで108.00円、108.50円にまとまったオプションが控えていることも、上値を限らせる要因にもなりそうだ。

ドル円以外では、昨日同様に豪ドルの動きに気をつけたい。本日は豪州から住宅建設許可件数、貿易収支などの経済指標が発表される。また豪経済に影響を与える中国からも、Caixin サービス部門購買担当者景気指数が発表されることで、経済指標の結果で神経質な動きになりそうだ。

また昨日、カーニーBOE(イングランド銀行)総裁の発言でポンドが大きく動いたが、東京時間19時頃にカンリフBOE副総裁の講演があるため、副総裁の講演内容には注目が集まりそうだ。

**【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間****<国内>**

○10:30 ◇ 布野日銀審議委員、あいさつ

**<海外>**

○10:30 ◎ 5月豪住宅建設許可件数(予想:前月比横ばい/前年同月比▲21.5%)

○10:30 ◇ 5月豪貿易収支(予想:52.5億豪ドルの黒字)

○10:45 ◎ 6月Caixin中国サービス部門購買担当者景気指数(PMI、予想:52.6)

- 16:00 ◎ 6月トルコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.05%／前年比15.74%）
- 16:30 ◎ スウェーデン中銀、政策金利発表（予想：▲0.25%で据え置き）
- 16:50 ◎ 6月仏サービス部門PMI改定値（予想：53.1）
- 16:55 ◎ 6月独サービス部門PMI改定値（予想：55.6）
- 17:00 ◎ 6月ユーロ圏サービス部門PMI改定値（予想：53.4）
- 17:00 ◎ ノボトニー・オーストリア中銀総裁、記者会見
- 17:30 ◎ 6月英サービス部門PMI（予想：51.0）
- 19:00 ◎ カンリフ・イングランド銀行（BOE）副総裁、講演
- 未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表（予想：1.50%で据え置き）
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 20:30 ◇ 6月米企業の人員削減数（チャレンジャー・グレイ・アンド・クリスマス社調べ）
- 21:15 ☆ 6月ADP全米雇用報告（予想：14.0万人）
- 21:15 ◎ ブロードベントBOE副総裁、講演
- 21:30 ◇ 5月カナダ貿易収支（予想：15億カナダドルの赤字）
- 21:30 ◎ 5月米貿易収支（予想：540億ドルの赤字）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：22.3万件／167.5万人）
- 22:45 ◎ 6月米サービス部門PMI改定値（予想：50.7）
- 22:45 ◎ 6月米総合PMI改定値
- 23:00 ◎ 5月米製造業新規受注（予想：前月比▲0.5%）
- 23:00 ☆ 6月米サプライマネジメント協会（ISM）非製造業指数（予想：55.9）
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 23:30 ◎ ビルロワ・フランス中銀総裁、講演
- 米株式・債券市場は短縮取引
- 米財務省3年、10年、30年債入札条件

4日

- 10:30 ◇ 5月豪小売売上高

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

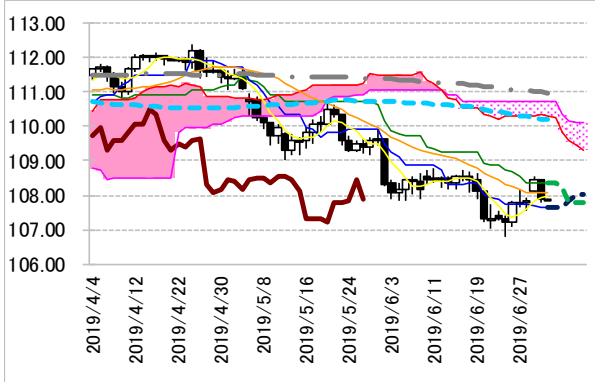
※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

- 2日 11:10 麻生財務相  
「(短観)内需を支えるファンダメンタルズしっかりしている」
- 2日 18:20 コンテ伊首相  
「イタリアの2019年予算案は、欧州連合(EU)の財政規律に合致した」
- 2日 18:33 ロウ RBA(豪準備銀行)総裁  
「必要に応じ、金利を再び調整する用意がある」
- 2日 18:54 欧州中央銀行(ECB)政策担当者  
「7月に早急に利下げする理由はない」
- 2日 20:01 レーン・フィンランド銀行(中央銀行)総裁  
「マイナス金利は、暫定的な措置だが、当面続く見込み」
- 2日 20:52 ジョンソン前英外相  
「EUの関税同盟に留まることは、ブレグジットを無意味にする」
- 2日 22:40 サウジアラビア・エネルギー相  
「国営石油会社サウジアラムコのIPOは2020年から21年」
- 2日 23:04 ナバロ米大統領補佐官(通商担当)  
「米国はすでに中国と電話協議を行っている」  
「米中通商協議はとても良い方向に向かっている」
- 2日 23:11  
「FRBによる利下げを望んでいる」  
「利下げは株式市場を支援する可能性」
- 2日 23:08 カーニーBOE(イングランド銀行)総裁  
「世界的な貿易衝突は下サイドのリスクを増大させている」  
「ブレグジットが円滑に進めば、BOEは利上げが必要とみている」  
「BOEは8月にブレグジットと貿易リスクを再評価する」
- 3日 00:04 メスター米クリーブランド連銀総裁  
「米経済が低成長と判断するには時期尚早」  
「政策金利引き下げは議論されているが、その効果は不透明」
- 3日 01:22  
「利下げを織り込む市場の動きは軽視できないが、市場が常に正しいというわけではない」  
「金融政策担当者にとって重要なことは、短期的な政治的考慮に左右されないこと」
- 3日 00:26 格付け会社フィッチ・レーティングス  
「ドルに対する通貨下落や政治混乱は新興国市場の銀行システムに短期的なリスク」
- 3日 01:06 トゥスク EU 大統領  
「EUトップ人事は決定に近づいている」
- 3日 03:39  
「ラガルド氏は ECB 総裁としてパーフェクト」
- 3日 01:17 米副大統領報道官  
「ペンス副大統領がワシントンに戻る必要がある何かが起きた」
- 3日 03:22 ラガルド国際通貨基金(IMF)専務理事  
「次期 ECB 総裁に指名されたことを光栄に思う」
- 3日 03:36 マクロン仏大統領  
「ラガルド IMF 専務理事は ECB 総裁になる全ての素質を持っている」  
「ラガルド理事は、IMF での経験と金融危機時の対応で市場からの信頼を得ている」
- 3日 03:32 コンテ伊首相  
「EUは赤字財政是正の警告を取り下げるはずだ」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

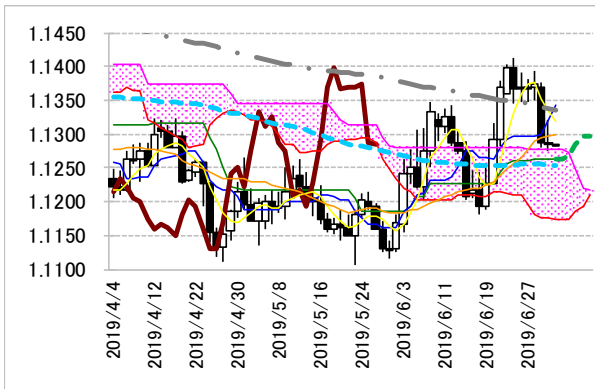


### <ドル円＝転換線とともに戻す展開を想定>

陰線引け。今後の低下が見込まれる一目均衡表・基準線 108.36 円付近で戻りが停滞し、107.77 円まで下押した。やや基調を弱め、107.90 円台で上昇中の 5 日移動平均線も支えとならなかった。

しかし、下落は 107.66 円で底打ちした一目・転換線の手前までにとどまっている。同線の戻りとともに、下値を切り上げるとみる。

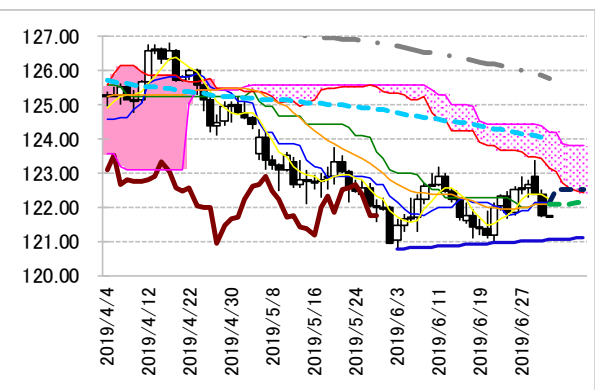
レジスタンス 2	108.80(6/11 高値)
レジスタンス 1	108.36(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	107.88
サポート 1	107.34(ピボット・サポート 2)



### <ユーロドル＝基準線やがて上昇し、支えとなる見込み>

上影極小陰線引け。一目均衡表・転換線の上昇を追うように 1.1321 ドルまで反発する場面もあったが失速した。伸び悩んでおり、目先の下支えを期待したい一目均衡表・雲の上限も現在の 1.1278 ドルから、今週末には低下し始める見込み。だが、相場に大きな崩れがなければ、週明けにも一目・基準線が現水準 1.1264 ドルから上昇へ転じる公算。雲に代わるサポートになるだろう。

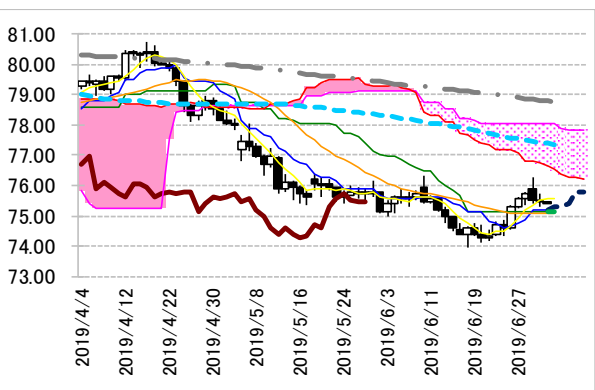
レジスタンス 1	1.1335(200 日移動平均線)
前日終値	1.1285
サポート 1	1.1229(6/18-25 上昇幅の 61.8%押し)



### <ユーロ円＝基準線に沿った緩やかな戻りを期待>

上影陰線引け。1 日に低下中の一目均衡表・雲の下限に迫る上昇となったところで伸び悩んで以降は、121 円台までの深押しとなった。一目・転換線 122.16 円や基準線 122.07 円を割り込んでいる。ただ、両線とも、現水準から上昇する可能性を維持。転換線のやや急な上昇には追従できないかもしれない。だが、基準線の緩やかな戻りに沿って、戻りを試す展開は期待できる。

レジスタンス 1	122.22(5 日移動平均線)
前日終値	121.76
サポート 1	121.05(6/3・21 安値を通る上昇トレンドライン)



### <豪ドル円＝押し目やや深めでも基準線や 21 日線が支えに>

小陰線引け。1 日には 6 月 10 日以来の高値 76.29 円まで上振れたものの、76.70 円付近で低下中の一目均衡表・雲の下限までの上値余地を埋めきれないまま失速している。75 円前半で上昇傾向の一目・転換線前後では下げ渋り、同線とともに、再び雲に近づく展開を予想する。押し目がやや深めとなっても、一目・基準線 75.12 円や、21 日移動平均線も支えとなるため、相場の大きな崩れは回避できるとみる。

レジスタンス 1	75.94(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値	75.46
サポート 1	75.10(21 日移動平均線)

